

新たな水素燃料スタンド、新たな導入地域、そして新たな国際的自動車メーカーが加わり、水素燃料産業は発展する 「クリーン・エネルギー・パートナーシップ(CEP)」

掲載日	2010年3月5日
国名	ドイツ
分類	環境
出典	連邦交通省
タイトル	Die Wasserstofffamilie wächst: Mit neuen Tankstellen, neuen Regionen und einem neuen, internationalen Automobilpartner Clean Energy Partnership (CEP)

強力な提携企業が共に未来の動力用燃料を発展させる。トヨタの参加や、新たな燃料スタンドの建設、更なる水素燃料センターの創設により、「クリーン・エネルギー・パートナーシップ(CEP)」は持続可能なモビリティの確立への道を引き続き歩んでいく。

「クリーン・エネルギー・パートナーシップ(CEP)とは、2002年に水素燃料自動車の推進を目的として、ドイツ連邦政府の支援のもとに結成された企業連合。現時点での参加企業は自動車メーカーのBMW、フォルクスワーゲン、ダイムラー、フォード、ゼネラル・モーターズ/オペル、トヨタ、バス等の交通サービス会社のBVG、ハンブルク・ホッホバーン、燃料供給会社のシェル、スタイル、トタル、リンデ、電力会社のパッテンフォールの13社である。

試験プロジェクトは三段階で実施中

- ①:水素燃料車普及の実行可能性と効果の検証(2004年11月～2008年6月)、
- ②:ハンブルクやベルリンの水素燃料推進特別地域での水素燃料供給スタンド建設や水素燃料バス導入(2008年5月～2010年)、
- ③:商業面での普及(2011年～2016年)

CEPは、連邦政府交通・建設・都市開発省の支援のもと、持続可能なエネルギー供給とドイツの経済発展のために投資する。2010年、CEPは強力な自動車メーカー(トヨタ)を獲得し、国際的なカリスマ性を帯びるようになった。

連邦政府交通・建設・都市開発省のライナー・ボンバ政務次官は以下のように述べた。

「ドイツは今後きっと電気自動車の主要市場となるはずですが。交通の未来は駆動装置の電動化に掛かっています。しかしこの難題は単独の技術では解決できないでしょう。我が省は技術的に開かれたアプローチをとり、バッテリーと同様に水素燃料技術と燃料電池技術も支援していきます。連邦交通省は業界と共同で、そのための資金として、約20億ユーロを用意しています」

この新たな提携によって、ドイツから発信される革新的な技術がグローバル・スタンダードになることが保証されるだろう。トヨタは2011年までに5台の燃料電池ハイブリッド車「FCHV-adv」(燃料電池ハイブリッド車とは、高圧水素ガスを燃料に使用する燃料電池とバッテリーを動力源にして、モーターを駆動するシステム。CO₂やNO_xを排出せず、エネルギー効率・静寂性に優れる。)をCEPに提供する予定で、これによって自動車メーカー6社が提供した40台以上の排ガス規制乗用車が、ベルリンおよびハンブルク市内を走ることになる。

トヨタモーターヨーロッパの荒島正社長は以下のように述べた。

「ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車や、純粋な電気自動車と並んで、燃料電池ハイブリッド車は、持続可能なモビリティへの道において、一層の排ガス低減の面で重要な役割を担うことになると確信しております。トヨタは 2015 年頃に燃料電池ハイブリッド車の市場初導入をすべく努力しています。この目標到達のためには水素燃料供給のためのインフラが当然不可欠です。自動車メーカーと燃料供給会社間の緊密な調整が決定的な意味を持っています。」

ドイツにおける「水素燃料および燃料電池年」である今年、2010 年 5 月 16 日から 21 日にかけてエッセンで開催される「世界水素エネルギー会議(WHEC)」と、その情報キャンペーン「変遷するエネルギー (Energie im Wandel)」では、再生エネルギーの担い手としての水素燃料に潜む巨大な可能性に焦点が当てられている。CEP の提携企業であるトタル(TOTAL)がベルリン・ブランデンブルク国際空港に最初のカーボンフリーの燃料供給所を建設し、同じく提携企業であるリンデ(Linde)、スタトイル(Statoil)、トタルの 3 社は今春ベルリンのホルツマルクト通りに水素燃料供給スタンドを開設する。今後ベルリン、ハンブルクならびにアウトバーン A24 号線沿いに、さらに多くの供給スタンドの建設が計画されている。再生可能エネルギーの統合はその際重要な役割を担っている。CEP は「再生可能な形で生産された水素燃料の割合を 50 パーセントまで引き上げる」という目標を表明している。さらに多くの水素燃料センターの創設と統合、ひいてはドイツ全土で燃料補給が可能なことを保証するという目標の実現に向けて、目下バーデン=ヴュルテンベルク州およびノルトライン=ヴェストファーレン州との話し合いが継続中である。